

疾病予知予防プロジェクトセンター

The Center for Community-based Health Research and Education (CoHRE)

研究テーマ名

加齢に伴う下肢症状へのアプローチ: Shimane COHER Studyにおける下肢静脈瘤検診の成果

Approaches for aging leg symptoms: varicose vein screening in a Shimane COHRE study

グループ紹介

新原 寛之(医学部・講師), 河野 邦江(医学部・特別協力研究員)
濱野 強(疾病予知予防プロジェクトセンター・専任講師)
武田 美輪子(疾病予知予防プロジェクトセンター・研究員), 水本 一生(医学部・准教授)
塩飽 邦憲(島根大学・理事), 森田 栄伸(医学部・教授), 並河 徹*(医学部・教授)

Hiroyuki Niihara (Associate Professor, Faculty of Medicine)
Kunie Kohno (Visiting Researcher, Faculty of Medicine)
Tsuyoshi Hamano (Associate Professor, Center for Community-based Health Research and Education)
Miwako Takeda (Researcher, Center for Community-based Health Research and Education)
Kazuo Mizumoto (Associate Professor, Faculty of Medicine),
Kuninori Shiwaku (Vice President, Shimane University)
Eishin Morita (Professor, Faculty of Medicine),
Toru Nabika*(Professor, Faculty of Medicine)

*センター長
*Director

概要

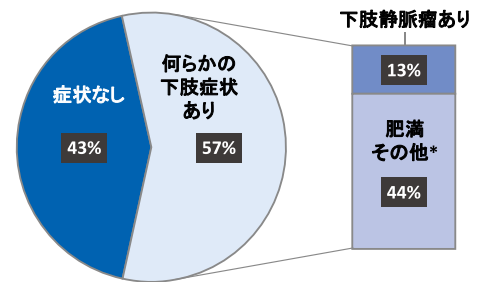
古来より老化は足からと言われています。加齢に伴い、下肢の疼痛、倦怠感、こむら返りなどの有訴者数は増加し、日常生活のQOLが低下します。下肢静脈瘤はそれら有訴者の原因疾患の中で主要なもののひとつです。下肢静脈瘤の下肢諸症状の原因となりうる疾患関連因子・要因は多数あり、家族歴、年齢や肥満、立ち仕事歴、性差(女性)等が知られています。本研究では、下肢静脈瘤において、疾患関連因子・要因と下肢症状との関連を解明し、下肢症状へのアプローチを考案します。

Since ancient times, a sign of aging is said to present itself in the symptoms of legs. The number of patients with symptomatic pains, fatigue and cramps in legs increases with aging and it leads to a lowered quality of life for them. Varicose veins are one of the main reasons for aging leg symptoms. Previous studies have shown that family history, age, BMI, standing work and female sex are the main factors of the disease. In the present study, the association between disease factors and leg symptoms are studied as part of a comprehensive approach in varicose vein screening.

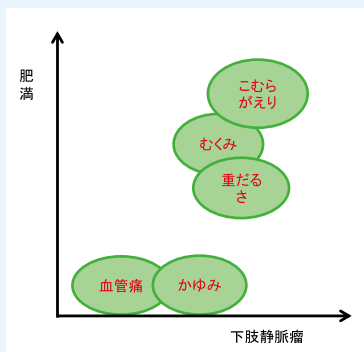
特色 研究成果 今後の展望

下肢症状は5項目(むくみ, 重だるさ, 血管痛, 痒み, こむら返り)をアンケート調査しました。下肢静脈瘤は、超音波エコーにて下肢表在血管の血管径, 血液逆流の評価をし, 逆流所見をもって診断しました。肥満はBMI25以上とし, 下肢症状に影響を与える要因として立ち仕事歴の問診を行いました。結果, 下肢に何らかの愁訴を持つ人は全体の57%存在し, その内13%が下肢静脈瘤と診断されました。

また, 肥満者では下肢の有訴者が多く, 肥満で下肢静脈瘤がある場合, 下肢の重だるさが



中山間地域の高齢者327名における下肢症状(2012年度調査より)
*その他には、腰部脊柱管狭窄症、変形性膝関節症が含まれる



顕在化します。しかし, 肥満単独でもこむらがえりやむくみといった下肢症状に影響がありました。また, 肥満に立ち仕事歴が加算されると, 有意に下肢静脈瘤のオッズ比が高まる事が示されました。このように, 肥満は下肢症状に関連し, 下肢静脈瘤があるとさらに症状が悪化するので, 肥満の予防が下肢症状の改善, ひいてはQOLの改善にもつながります。わたしたちは, 今後も下肢静脈瘤の未知の要因を調査し, 高齢化社会におけるQOLの改善を目指します。